

JE-HydroNET「Hydro-BEAM トレーニングコース」を開催しました

2012年10月8日～10月11日の4日間、エジプト・カイロ北部のエジプト水資源・灌漑省水資源研究所(MWRI-NWRC)の水利研究所地域研修センター(HRI-RTC)において、佐藤嘉展特定准教授と田中賢治准教授が、防災研究所水資源環境研究センターで開発してきた流域環境評価モデル(Hydro-BEAM)のナイル川流域への適用についての講習会を「ナイルデルタの統合水資源管理の高度化に向けた JE-HydroNET」の一環として実施しました。

研修にはエジプト水資源省の土木工学分野の計画部門やナイル用水の専門官、水資源研究所内のナイル研究所、水利研究所、河川管理官、戦略研究ユニット官などの行政部門の実務担当者とエジプト国内の大学(Azhar, Assiut, Alexandria, Menya)などから24名が参加し、講師は、防災研究所から佐藤特定准教授と田中准教授の2名と、GCOE-ARS(極端気象と適応社会の生存科学)の一環として2012年6月から2ヶ月間この研修実施準備のために防災研究所に招聘していた Assiut 大学の Mohammed Abdel-Fattah 氏と、Hydro-BEAM によるワジ鉄砲洪水(Flash Flood)の解析に詳しい Assiut 大学の Mohamed Saber 博士の計4名が担当しました。

研修内容は、GISソフトウェアによる流域のモデル化から、衛星リモートセンシングデータを流出シミュレーションモデルに適用するためのデータ処理技術、陸面過程モデルから降雨流出解析に至るまでの一連の物理モデルの解説、ソースコード解説の講義から、実際に FORTRAN コンパイラを使った各種プログラムの実行、さらに実行結果の解析(可視化)の実習に至るまで多岐にわたる研修でしたが、受講者は熱心に聴講し、活発な質疑もあり、ナイル川流域の水資源管理や将来予測に強い関心を持っていました。

今後は、ダム操作や土地利用、灌漑取水、ナイル川の気候や地理条件などに対応するようにモデルを共同で改良し、解析ツールやデータ共有を進めながら、ナイル川流域における水資源予測の精度向上を実施していく予定です。



集合写真



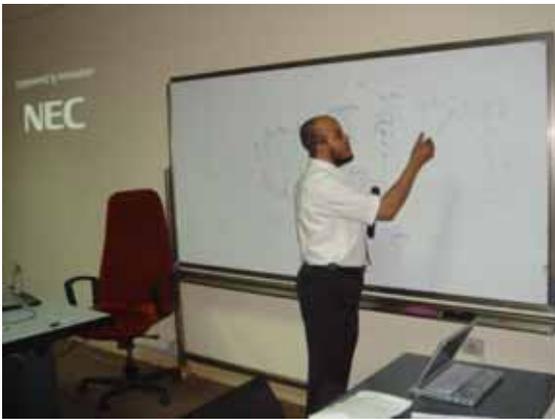
研修の様子(佐藤特定准教授)



研修の様子 (M. Abdel-Fattah 氏)



研修の様子 (田中准教授)



研修の様子 (M. Saber 博士)



研修の様子 (受講生)